



世にむくものもゆふふいふいふて実には若くも
し絶有るさむくもいふ

○劉批劉賛

五代のとき後唐劉批と云人の縁の代官とて清康のま
ちく小氏と藤忠初世二の縁合なりと云み劉賛ふま文と
らうに衣は青さ布は冬綿と云く入食は藜
藿のあつめと飽満せうはあつて綿は底のよあけだ
下人のくくもさ文の劉批は綿縵の衣と云ふ縁奥を
の料理と云ふはまの劉賛は縵といふ綿縵の
みふこれ衣の縁りまののふてはま文と云くあま文と知
るむ自然と奉縁は若くも縁りてと云ふさうふ劉賛
と云ふ縁て絶もさむいふははあつて文は縵と云ふ縁り
と云ふ

く昇進しつゝふてこれい文と云う縵し子と云う教と受と
云べ

○孫叔敖

楚の孫叔敖いひふうにとれ出てあまふは兩路の蛇と云
ふりとかうこれと云ふ叔敖と云中になつて家へぬと云ひ
款くくふふにむくもあやといふさうと云ふ
かげくやと尋ね孫叔敖と云いひて我は傳は傳は
兩つの蛇と云ふは蛇と云ふ人死と云ふ唯今我は死の蛇を
と云ふ又蛇の人と云ふは蛇と云ふ人頭は蛇と云ふと云
ふたびと云ふて云は埋めと云ふ我は母より後死せん
ふかこふ款くありと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
いふと云ふ蛇と云ふ人の人々と云ふと云ふと云ふと云ふ



うらこれにゆが徳あり徳ありと湯敷育ちと云ふは
有るに頭もつた事あり物かて欲を慮るはと云ふは
が余へむむふはけくくくくくくくくくく果し多
今にうらふ盛にの後世の國王はてきん後と云ふ名と天
下にかきとくくく

○周茂才の書

宋の世に周茂才とて有るは大賈なり其幼は達し文藝亦
うらふ材とすうらふ年月倍て難友大福人といひし人
むらふ外と稱し之を二中にくくくくくくくくくく
りゆてくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
るに容貌せよとてをくくくくくくくくくくくくく

有候とて太ふけきこの夏姑のふに出てゆくは月日家
嫁してゆく情家制とてくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
吾より人といふもくくくくくくくくくくくくく
人のくくくく物くくくくくくくくくくくくくく
たぐいとゆをゆりてくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
獨のあくくくくくくくくくくくくくくくくくく
斗満天とてくくくくくくくくくくくくくくくく
がけりくくくくくくくくくくくくくくくくくく
そくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

きりくちんと思ひ流や今にして小斗後天とて五十年長
又て後二十五年の君ありてさうの罪とほくのひたるや
さういふ家とてさういふ人さういふ家とてさういふ家と
書のまゝのさういふ人さういふ家とてさういふ家と
男と二人とてさういふ人さういふ家とてさういふ家と
昇進一父祖の名をあらせしめ金く張氏が操のふりた
いさういふや

○畢從志

宋の初年平中の事ありとて我州の初縣黃績國とて人
或日豫と死や一益後なり蘇生とて人さういふ人
いさういふ人さういふ人さういふ人さういふ人
居たり大王様とて勅して殿の房にたせりて云は昔の者

む令教いさういふ人さういふ人さういふ人さういふ人
昔と流とてさういふ人さういふ人さういふ人さういふ人
さういふ人さういふ人さういふ人さういふ人さういふ人
令讀とてそれれ金讀と讀とてさういふ人さういふ人
花さういふ人さういふ人さういふ人さういふ人さういふ人
いさういふ人さういふ人さういふ人さういふ人さういふ人
さういふ人さういふ人さういふ人さういふ人さういふ人
いさういふ人さういふ人さういふ人さういふ人さういふ人
や思ひさういふ人さういふ人さういふ人さういふ人
代さういふ人さういふ人さういふ人さういふ人さういふ人
さういふ人さういふ人さういふ人さういふ人さういふ人
生さういふ人さういふ人さういふ人さういふ人さういふ人



大にぼろろれてしるるの事半減は我書しもけりて瘧ぶられ
あつたゝや冥府の腰よりさうとてとりこやとるを流し
いよく塊りとせよといふらるる係さうてふ友人とては交
九十餘才で重病長考するじとやまはあの僧岐蘇の山中と
ぬりくる小辨院の人と香く服の天へ騰してさう金英宗と唱
るとばさうらるる腹の膨とさうとりぬは唐とてわらのおん腹乃
膨とすふ妙薬なりと云ひかりわらは通糸の僧淑念の婦
の鼓脹と云へるをみて妙薬こそ有りともてこの金英宗をな
て美し飲ませたりねかく啼喚をやとていふことばをせとして
あつたゝやとて疾は伏しぬ疾わけてくれどと婦人の解とち
あつたゝやとていふやそれ金英宗一名透心根とて大毒藥
として人々と傷む物なりとて此後佛も人を化度しとて

一、わが道はかたがはさう先己の道とありて人と夫
 自色の不徳つむすゝむびりかたの仁政として我宗を起す
 宗傳來の所傳をを眼とてとて原く禁ぜりてを松有
 許控るゝやえ来我道は此とていぬゆりてとてとて
 とてとてとていゝ人に己が利の爲み事を斗る賣傳かむびり

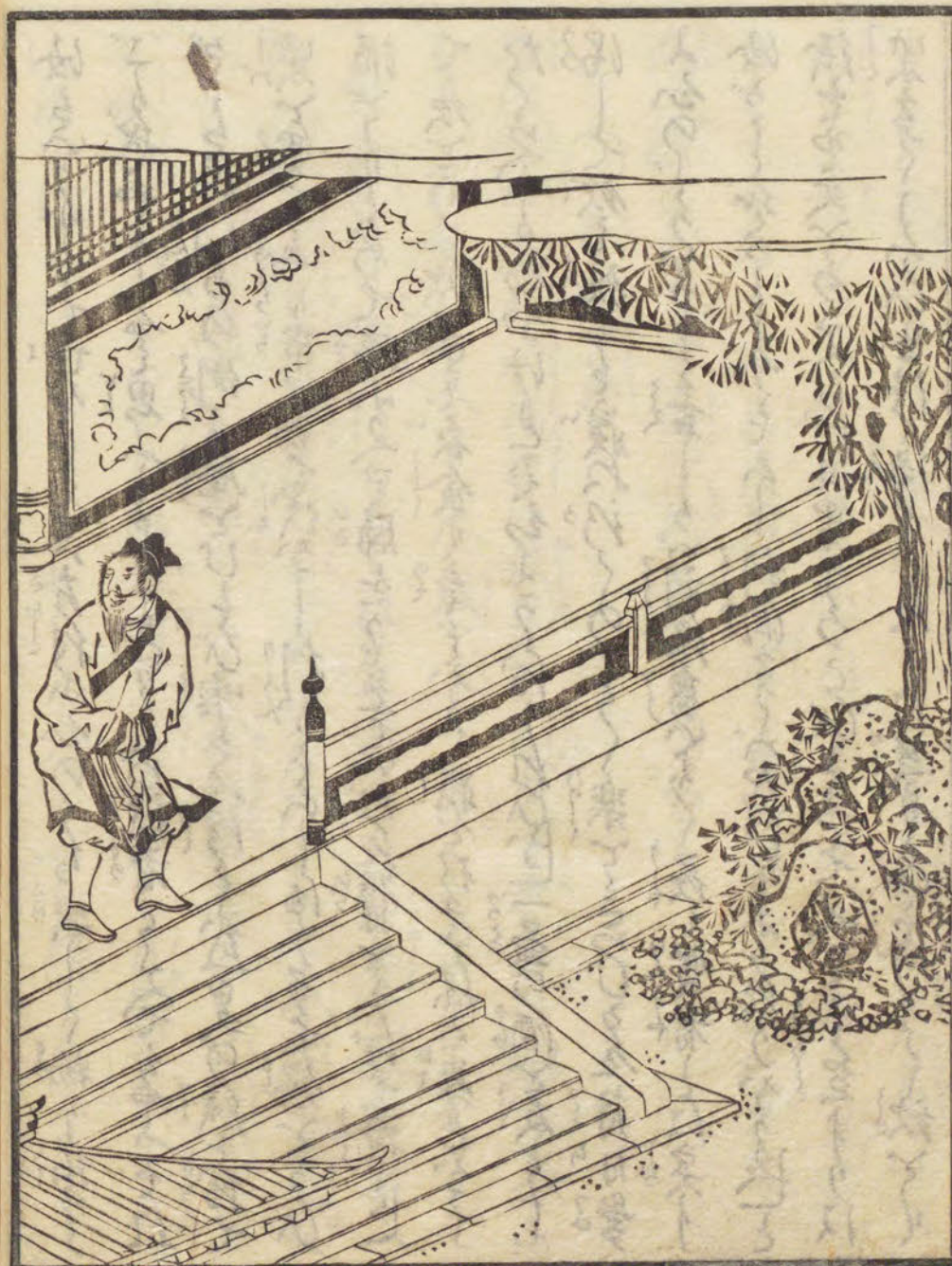
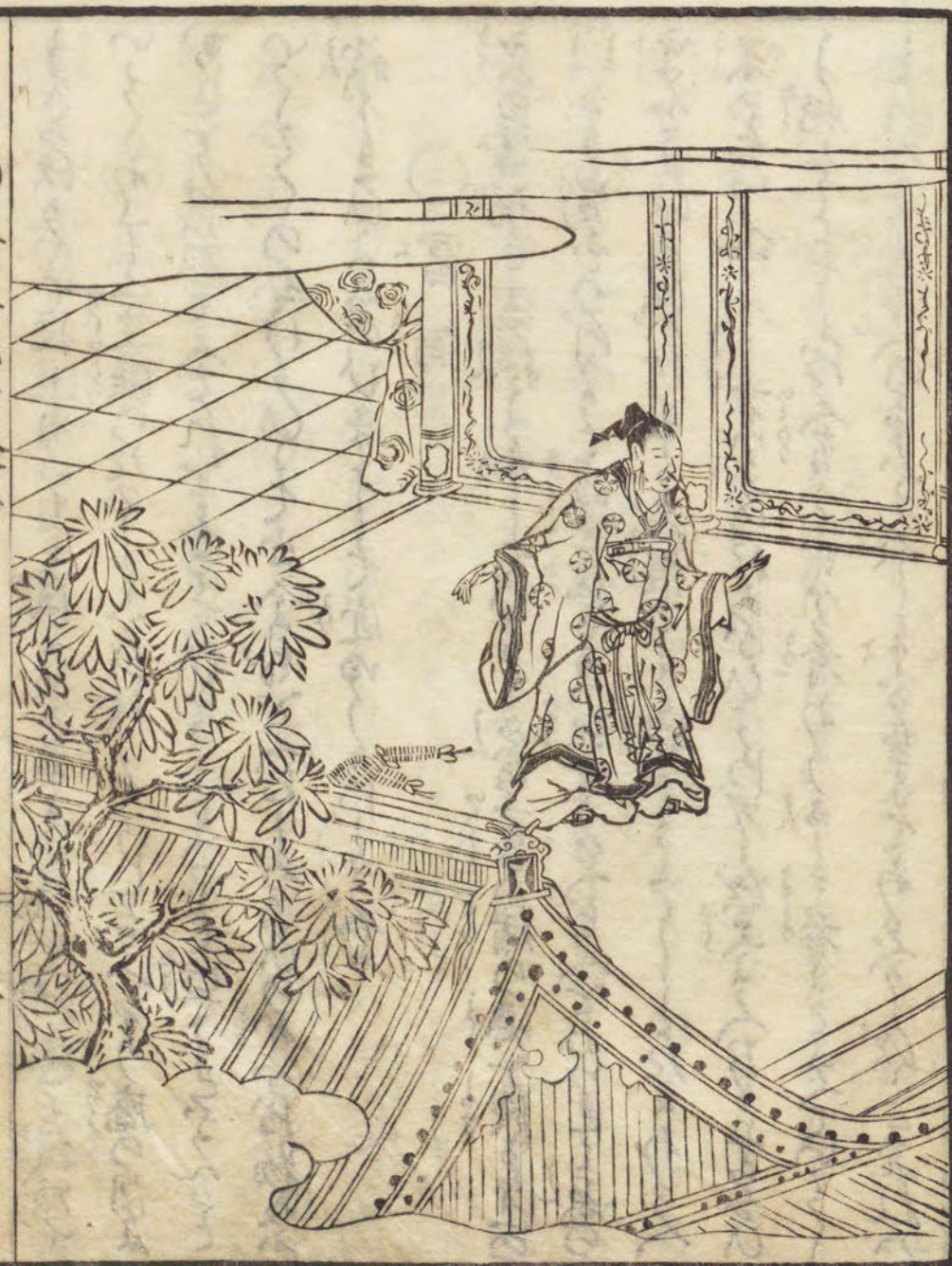
唐の蔡公とせふきこえては博學の賢者の蔡と云ふなり
ふつとてあるにたの蔡を知らずとて田畠と云ふに
は慶年卒とて母は孫と云ふをいうとてよく誤らじと
業と云ふとて母と云ふとて母と云ふとておれは馬を
投打とせしとて
くんとてあつて血とてなりこれとて業と云ふとの誤と
とて
初學とては天下の博學とては辭後階人として進有

一うで母をたふあひて終へてより母を多々の後、業をば孫小
彼は又投つてちばは馬の腹を門出て此いふうて業
あつて今のうへ、壽ははひとて涙は慈母のいまの秋見ありと
疵の痕とる毎に涙と流さうとや

○賣菜氣

唐の禮部侍郎劉伯翳の松葉の門ちと毎日菜と擔ひて市に
出くうてちばは入るゝん股とらて秋ひひやりあけうて
とる男わると仙男はうとこれとてあつたは男とゆふび入
ねと肉をぬり菜と擔ひて市にあらぬひゆゝんはち菜の味を
をうて家へ入るゝと浦へけと秋の庭はたてて官保をく
衣食の款とるふちとひ奴婢も是のうへ月分がとるゝん
はは又秋菜ははちととるわくよりひる中をたいとあつ

ははうふて世をとてせむかふのうち菜と物と拍々
とらやうとを思ふとこのうへは彼者としてちやとそれ
がとち門ちの例は庵とひとび唯る人へて武臣の味を
菜と賣て毎日市に出て代かへれるとてちやとて候とひ
酒とりてちやとて庵へて膳をくちていたれ傳とすげて枕に
て候とちやとて家へ衣食とるゝとて我をばちやとて
たぐとる物かけとてちやとてちやとて二盃の酒とて
喝して飲もぬてと候わくゝのうへとて樂とてちやとて月日
ふふのうへとてちやとて劉伯翳とてちやとて賢者とては
はちとてちやとて今とてちやとて利國とてちやとてちやと
張とて文とてちやとて此男とてちやとてちやとてちやと
はちとてちやとてちやとてちやとてちやとてちやとて



うらぶうてに五月つらてはは彼きや又の張と内来を投げて
いふわう一生涯のたのしき此張とてうしるより魔の肉よ
かにとけぬと人これとあるてひとふまうと盗まふと
いふとのむげうひと出ふものと宿りあひのかた物なふ
我うといふむひ果すとて迎ゆるはうや

○富弼

宋の富弼は子孫よりいふと宋の二帝の諸の徳を承る者の
門より官ふわうて政と執事のたてり多し人となつて宋の
字をよみはげし竹半の愚憤あり我うといふとなあつて人
来りていふやうに方々のほかにいふはうに文より人なるをい
ふれどもそは人者とてある者あり事と者とをいふといふ
それのまじり人の事とていふ事とあはれりといふと云ふれ

彼者うと稱ていふとまじりてそ方の名とてて維新よりぬ
と云ふ又押ていふと天下のひられたるなりはかど氏に
衣のふかうとやうなめて同様の人なるをいふ事とて
変てあるはと云ふと告るやとて人なるをいふは維新と
ゆり後へうと稱て中といふとよりぬと澄みとれたるを
此富弼の世ふといふとそは良智のふと宰相の官とあるを
景とていふとそは張や渡り人のふと云ふとそはとてい
ふとそはわうと云ふとひといふと又わうと云ふとそは
愚人といふとそは世のふと云ふとそは人なるをいふと
いふとそはむと云ふと富弼の教有るをいふとそは

○阜茂

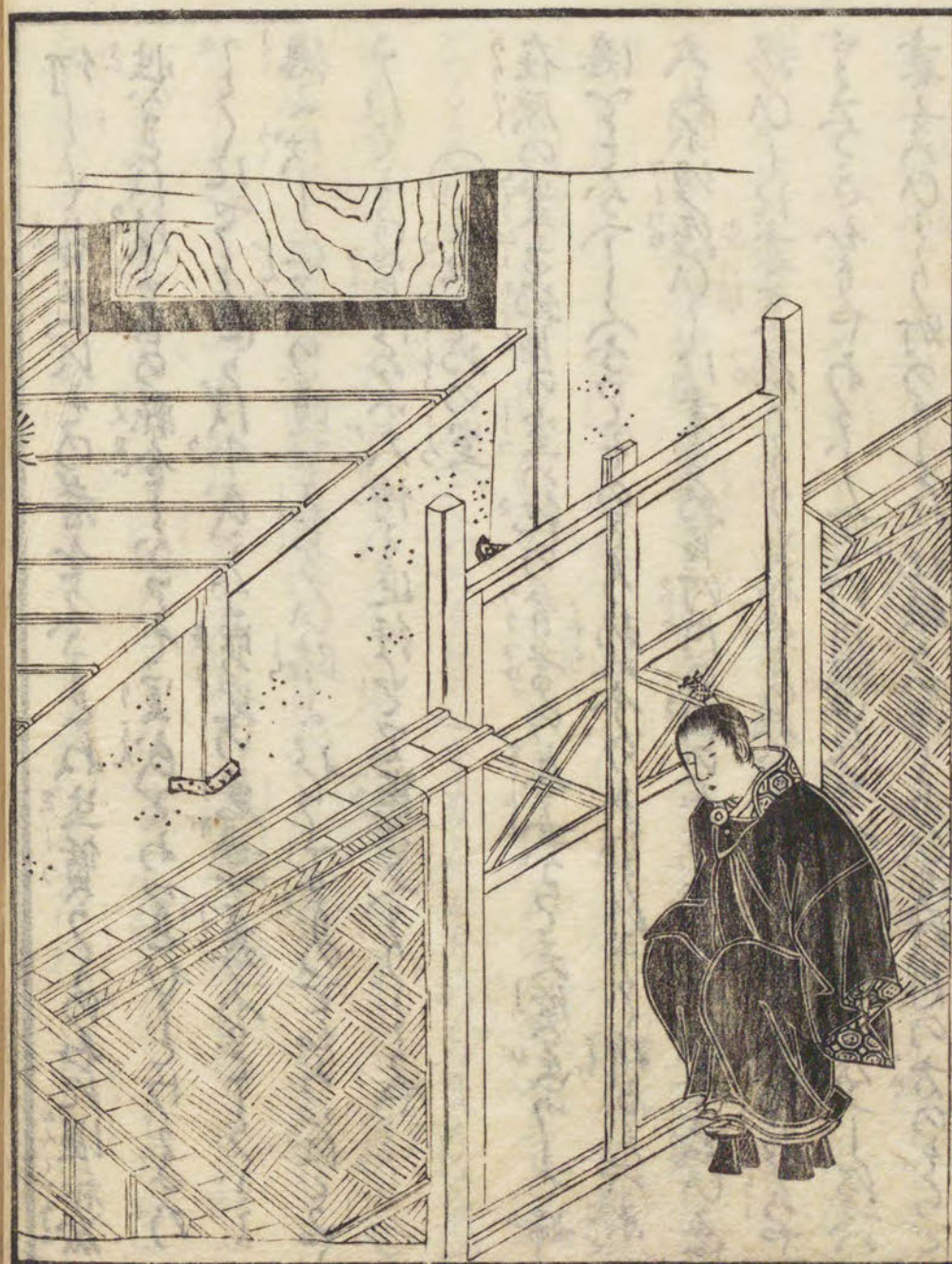
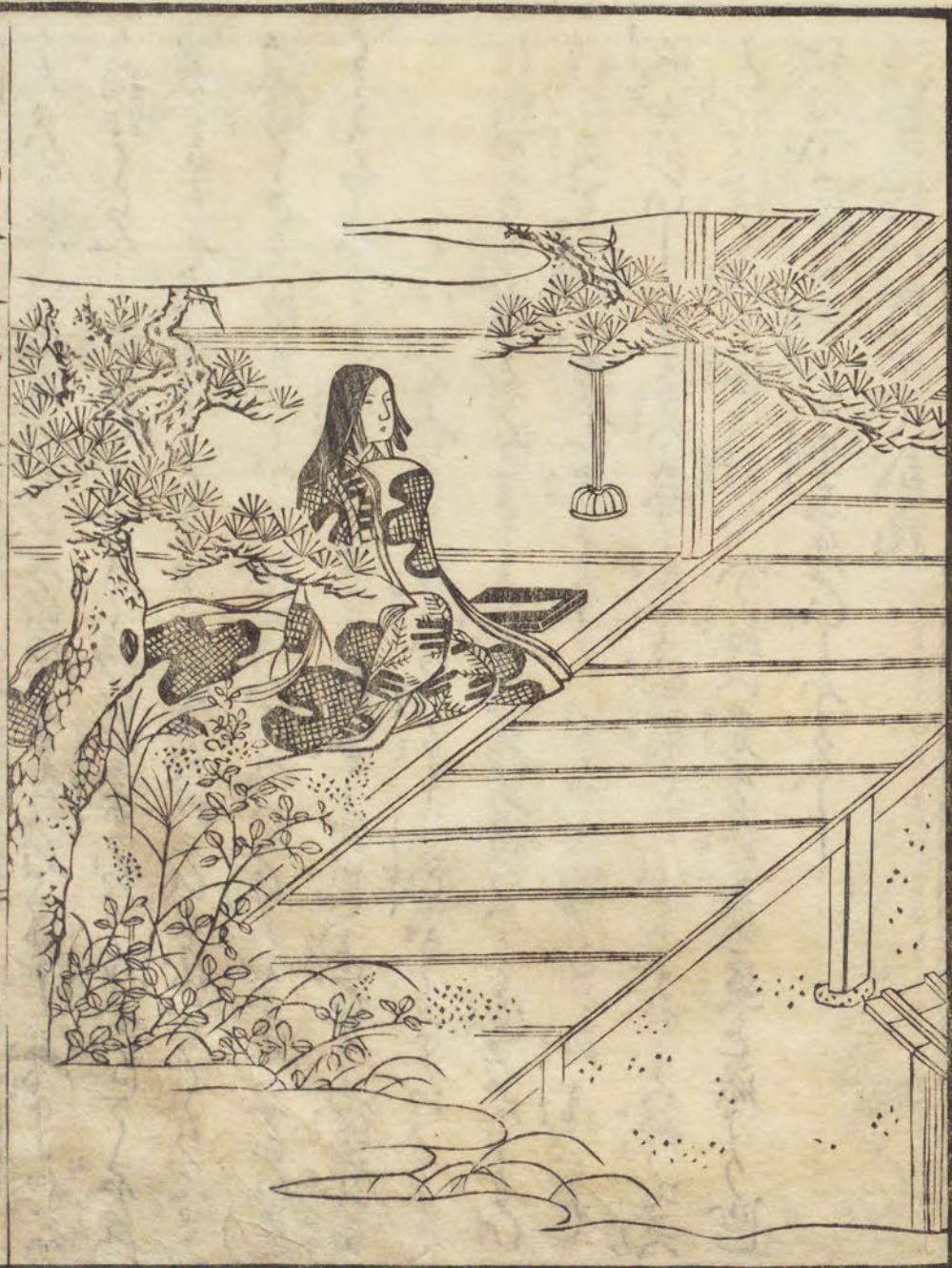
漢の阜茂は忠相府の史よりいふと車に乗て人の汗を

わろ者馬とていひはく尋ねるる早哉うろく来て云
 つる今更にい車と云ふ馬のまゝに我がうろかひい
 るといふとて降りてより早哉が役者をこれを見て
 大いなる不由がけ多忽とてうろかこととて馬を失
 者と云ふ人々もて早哉車のうろかたを役者を制
 るを失し者もむいていよく候ふといはばこの比失ひうろと尋
 らるるその者こそていつるをこす目ぐりつらうけい
 いとより早哉これを見てうろかたを此中へうろく又候て
 わあうろくと思ひがづりける不承なる証候あうろく
 かうと何といふにばるをうろかて人候者小車をうろかせ
 うろねに五りてのら候るをうろか者候るをうろか
 早哉うろをうろて来とてうろくといふ早哉候るをうろて又

何といふ昔はばその者をうろくといふ生質うろのわね温
 性もば後よ密の縣令もかてて里氏とわらひてうろく乃
 といひてうろくば下氏も密見の意母と慕ふがうろく
 徳も伏しに我の道とてうろく路もわらうろくものともうろく
 うろくその宿はわろ大傳も近江とて家とてうろく

○在中の室

在原の業お船の室の紀の省の息女がて天候更めて婦
 徳もふて人かてそのうろかひ今のふてうろく折るといふ未
 大わろ候いかに業お船の内の國の女のうろくうろく悲ひ
 候ひに妻室候るうろく候るをうろく候るを業お船のうろ
 すかかをりやわろく人といひ内へ候るをうろく候るを
 妻女のいり灯のうろくに化粧のうろく候て何内の方のうろと



楊希中

七丁

楊寶

八丁

荀巨伯

九丁

安良賣

十丁

梶原景久

十一丁

元石夫妻

十二丁

韓琦

十三丁

繪中德行流をくこ

○表盗

漢の表盗文帝の初はて忠直の望もこれよりか帝は
 明君と有る一と慎まんとするをうけりか一寢を
 わるれば怯まんとす所を自らたてりてびびるをこりて表盗
 ことをえてこれを根をうけりか何程怯まんとす所を
 ませりとて皇后と所を同しとせんと思ひて慎まんと
 立下りたりとりまんとて面月と一ひひて死すも
 人にとりて表盗があらうかとて候ふはじりたりとて
 あらう小盗ありけりて表盗とて天下の福の根元これ
 にこれより天下は君の所なりまんのあり貴族とのれり
 これよりとて下りて人をして人として候ふはじりたりとて

あるれとすゆぐー君々々ぬばやとて高帝の威まんと寵を
しめと居座つてゆきぬひる相崩れなりて後、威まんのよ
足の指とて耳とより鼻とて肛の中へこめて人衆と号け
ざるもこれに居て居座いふとて、呂后の一族もかういひ
とけしりてとてやと練奏せしるも帝は逆鱗とやうに慎
まへしむみたりとてしるや

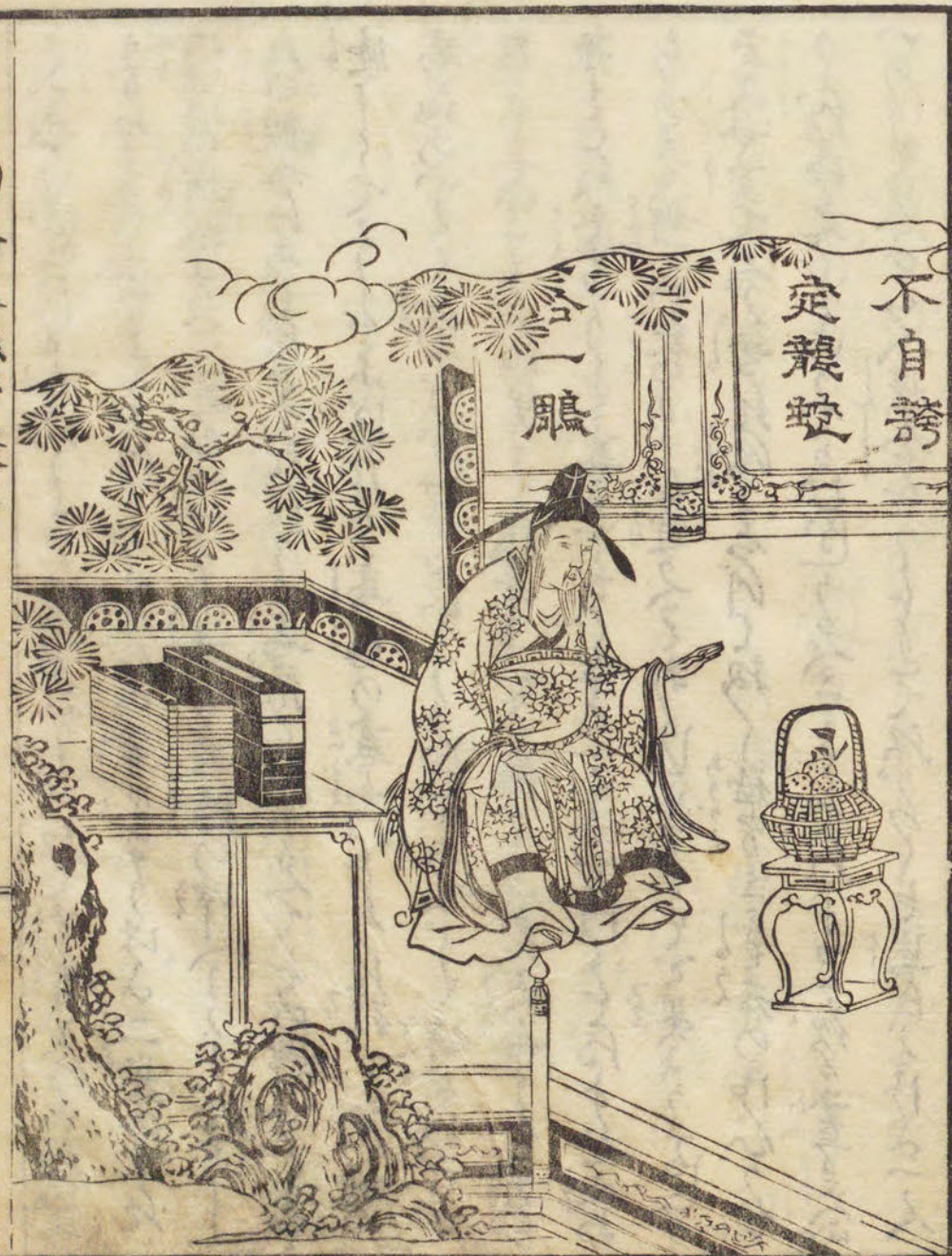
○賈郁

明の賈郁は仙遊の知縣なりし縣令の縁多しといふも見
ずから梨と持来てこれいぬるなりとむ梨をてりて帝はなり
なもぬとてしる相ふ奉さるるなりとてはははははと
べーしとてとて賈郁望て方ふ人の方なりと家も親大
あすこなりとて方の子とてとて来たりは漢の楊震の太知

此知我知は知るもて黄金とけりしとてこれと楊震が
知しむとてや今我知は父兄をこれを知りてとてははは
人の思ふとてはははの知る人なりとて梨をうけたりとて縣令
恥入て侍りしとてや人の思ふとてこれとて君がたうとて
とて思ふたけんやとてのたけしとて寵有りて賈郁がけりし
いさめ葉多きとて好庭なりとてや物をねおまねふとて
むぞうしこれをうけふははははの葉の葉なりとてむじり
なりとて梨と輝やとて所の事なりとてはははの事なりとて
いさめとてはははの事なりとてはははの事なりとてはははの事なりとて

○馬鹿

宋の馬鹿は年に十歳なりとてて男子と殺けけし玉とて



さけけと祈りて淋や感有れど憂有りくと婢女又さう誠を空
りて馬車の妻女かゝる懐妊ありて次の年男の子出生ありて
容貌をにまたらけりてけがたの頬に火傷のしる痕ありて
これの更によてひ産まうたしとてびじ成仁の後君に之を
本の家とせり馬司とせりて此小児の生えたりとてや
馬車をうけとてあまの慈恵のたまふとて婢女と教ふとて
知らるる縁通ふ人は涙をたれにやとて出来侍れりとて出せしむ

音備云右邊士少尉

吉備云々石部士少尉
弘仁以後佐士府を終て
衡内と云ふは近か唐
の入り 靈龜二年二十才を入唐して習書と覽且衆譽り
唐に學業を以て天宗九年帰朝し唐人の互康八年
唐後太子の助より
唐にあり 孝孫帝は禮記と授りて姓と名備の朝に
唐にあり



良家のわね方なく、
一皮あそく、
死にひの、
の、
けり、
あ、
居て物、
う、
は、
あ、
その、

は、
の、

○楊希仲

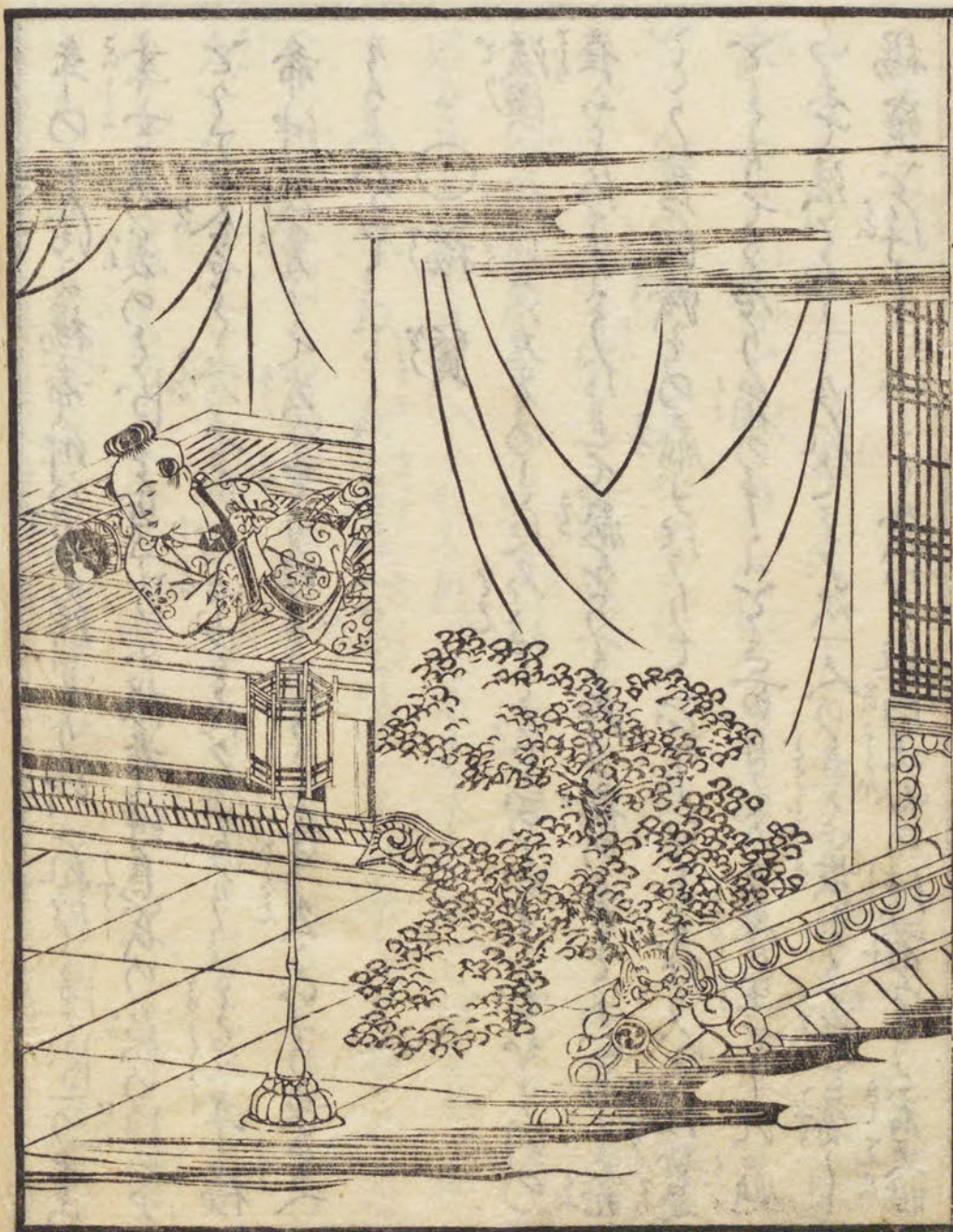
宋の楊希仲、
成都、
え、
あり、
仲、
う、
ま、
あ、
う、
ま、
う、

こづねの栢とせんまきまがく契とひとひのふとと
 ようこそほくせんとはおのれうりあてり我定む妻深
 家よりあま貞女と申りてたじくあをたきまをいふ
 いとや天のふとにほふまはせけくてもと来しうげふ
 わづら契とせんまきまがく契とひとひのふとと
 の鬼神とれとてあひてあまの心遠くといふとやゆ
 けのみのひよりあててたれくともう後とひとひの
 うみとてふねと契とせんまきまがく契とひとひの
 いづはみとの楊希仲と成部とありてかて道とちり
 夫とをそとてふとふとふとてでけし明うゆてこれと
 めとてふねと契とせんまきまがく契とひとひの
 子めより妻女とてふとふとふとてでけし明うゆてこれと

年のと書ふ楊希仲の家より
 妻女との契とせんまきまがく契とひとひの
 とてふねと契とせんまきまがく契とひとひの
 希仲と成部とありてかて道とちり

○楊 寶

後漢の楊寶の九才のふたは法とてふのふとと
 雀とてふとてふとてふとてふとてふとてふと
 といふとてふとてふとてふとてふとてふと
 といふとてふとてふとてふとてふとてふと
 楊寶と書いていふと我とこれ西王母の使者より



物を哀じかきしめて我命をたゞけんと思ふを彼らに
して白き玉と成りていふまゝ縁々たる人
々として死してゆかざればならん果して楊寶より臣代云惟
の爵位をうけたる侯と眞くの中へ續きとめて長るの才
とふうなはるトははるの半なり

○荀巨伯

晋の荀巨伯一人遠國へ友達の有る所をゆくと思ひて
ゆく身ゆれりや友人折る大病を有るが故に
して看病し居るにけり一々年々病をもちて
りる國よりふふれりて敵國の云々よふとい
て乱れとふとふらでしりり病をみかくるがせ
病人なりとてさうり荀巨伯の友人と捨てしる

うふがしとて付きて居る軍をまゐりておのこは
何ものかと思へれども友人しけりせうにけりや
は妙なけりや荀巨伯とていふ我の仇國の者なり
これらふ友は遠くをいへるまうに病はけりこれ
を見捨てて去るは道にありて病人とてけりけり
我とてしては友とたけりやと云ふと云ふと云ふ
主家とてこりぬくやうなものを日頃明友のらに
うとてこり病者よ故舊大放されしと云ふと云ふ
久しれ後友を大衆とせぬものゝみあつて病者
だし久しれ病者をけり一踏の恨みあけと云ふ
と云ふと云ふ

○安良賣

況や國遠賀郡某の女は安良賣といふなり生得者の
公孫く幼稚のときより長父母は之を扇枕温床の
とて之を養ふ不母といへりや父母は之を
又未だておし慰哀の情休むに飾物の新集と
は之を次女とて年の喪備へ十六歳のとき
宗像郡長林といふ小嫁にけりふささ不業
とて杜是子く
再嫁といふが安良賣年弱きて夫を失ふて
けりふはと嫡居節とて母とて之を養ふ
とは應やといふ中王聽は達し天長五年二月
節女子安良賣は二級と授けり若千の者田
くは遠國遠郡の小女子の安良賣者といふ
とて夫とて

つらふに記さるるを後の世に傳へるなり
うたれたる一かき

○梶原景久

梶原之部は河内郡系久といふ景時が
河内郡系久といふ景時が河内郡系久といふ
云々の娘を娶ふといふやうな女あり
女あるとてありて先原系久の娘とて
忠臣といふやうな女ありて河内郡系久
といふやうな女ありて河内郡系久といふ
の娘とてありて河内郡系久といふ
娘とてありて河内郡系久といふ